

領域	専門分野Ⅱ 小児看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	小児看護学方法論Ⅰ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 小児科医師				

科目目標：

1. 小児医療の特殊性を理解できる
2. 既習内容を基盤として、小児に特有な健康障害を理解できる

授業概要：

小児の特徴に関する知識を基盤に、成人とは異なる小児の特徴的な健康障害について学習する。小児の疾患は数多くある。その中でも小児に特徴的な疾患を学んでいく。小児疾患を学ぼうえで、小児の器官の解剖生理、病態生理をふまえて理解できるよう学習する。治療に関しては、疾病の経過に応じて変わる治療法について学ぶ。

授業計画

回数	講義内容	講義形式	担当講師
1	1. 染色体異常・体内環境により発症する先天異常 1) 染色体異常 (1) 常染色体異常 (2) ダウン症候群 (3) クラインフェルター症候群 (4) ターナー症候群 (5) 脆弱x症候群 (6) ネコ鳴き症候群 2) 胎芽病と胎児病 2. 新生児の健康障害 1) 新生児の疾患 (1) 分娩損傷 (2) 適応障害 (3) 感染症 2) 低出生体重児の疾患 (1) 脳室内出血 (2) 呼吸窮迫症候群 (3) 未熟児貧血 (4) 未熟児くる病 (5) 未熟児網膜症 3) 成熟異常	講義	院内講師
2	3. 代謝性・内分泌疾患 1) 新生児マススクリーニング 2) 先天代謝異常症 3) 代謝性疾患 (1) 糖尿病 (2) アセトン血性嘔吐症 4) 下垂体疾患 5) 甲状腺疾患 6) 副甲状腺疾患 7) 副腎疾患 8) 性腺の異常	講義	院内講師
3	4. 免疫疾患・アレルギー疾患 1) アレルギーの分類と発生機序 2) アレルギー性疾患 3) 原発性免疫不全症候群	講義	院内講師
4	5. 感染症 1) 子どもの感染に対する基本的知識 (1) 感染の基本的知識 (2) 子どもの免疫の特徴 2) 細菌性感染症	講義	院内講師
5	3) ウイルス性感染症	講義	院内講師
6	6. 呼吸器疾患 1) 先天性喘鳴 2) 上気道の炎症 3) 気管支・肺・胸膜疾患	講義	院内講師
7	7. 循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 後天性心疾患 3) 川崎病 4) 心臓律動の異常 5) 突然死	講義	院内講師

8	8. 消化器疾患 1) 口腔疾患 2) 横隔膜の疾患 3) 食道疾患 4) 胃・十二指腸の疾患 5) 小腸・大腸の疾患 6) 腹膜・腹壁の疾患 7) 肝臓・胆道の疾患 8) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義	院内講師
9	9. 血液・造血器疾患 1) 貧血 2) 出血性疾患 10. 悪性新生物 1) 造血器腫瘍 2) 脳腫瘍 3) 固形腫瘍	講義	院内講師
10	11. 腎・泌尿器疾患 1) 泌尿・生殖器の奇形 2) 腎糸球体疾患 3) 腎尿細管疾患 4) その他の腎疾患 5) 尿路の疾患	講義	院内講師
11	12. 神経疾患 1) 神経系の奇形 2) けいれん性疾患 3) 急性神経疾患 4) 筋疾患	講義	院内講師
12	13. 運動器疾患 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 骨折	講義	院内講師
13	14. 皮膚疾患 1) 母斑 2) 魚鱗癬 3) 汗癬 4) 湿疹・皮膚炎群 5) 細菌性皮膚疾患 15. 眼疾患 1) 感染症 2) 屈折異常 3) 眼瞼の異常 16. 耳鼻咽喉疾患 1) 外耳の疾患 2) 中耳の疾患 3) 鼻及び副鼻腔の疾患 4) 咽頭の疾患	講義	院内講師
14	17. 精神疾患 1) 発達障害 2) 神経症的障害 3) 精神病的障害 4) その他の行動上の障害	講義	院内講師
15	18. 事故・外傷 1) 不慮の事故 2) 頭部外傷 3) 誤飲・誤嚥 4) 溺水 5) 熱傷 19. 虐待	講義	院内講師
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院
3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院
4. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院

評価方法

筆記試験（別紙評価計画参照）

領域	専門分野Ⅱ 小児看護学	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	小児看護学方法論Ⅱ	単位(時間)	2単位(60時間)		
講師名 所属	藤島 法仁 長崎短期大学地域共生学科 教授 内田 美鈴 元専任教員 看護師 院外講師 佐賀病院 看護師 尊田 知美 佐賀病院 看護師(新生児集中ケア認定看護師)				
科目目標： 1. 基本となる小児看護技術を理解できる 2. 小児に見られる主な症状と看護を理解できる 3. 健康問題・障害の経過の特徴と看護の展開を理解できる 4. 小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護を理解できる 5. 小児の特性に着目し、病態・治療の経過に応じた看護について理解できる					
授業概要： 基礎看護学の既習内容と関連づけ、小児に特徴的な技術と看護について学習する。小児科に特有な発達段階を考慮した説明と同意及び処置を学習する。健康障害を持つ小児および家族のもつ身体的・社会的・心理的側面について学習する。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～2	I 小児看護技術 1. 日常生活援助技術 1) 食事援助技術 (1) 小児の食事・栄養の目的と意義 (2) 離乳食の援助 2) 清潔援助技術 (1) 発達段階から見る清潔習慣 (2) 清拭・洗髪・口腔ケア・陰部ケア(殿部浴) 3) 排泄援助技術 (1) 小児の成長発達と排泄 (2) 排泄のしつけ(トイレトレーニング) (3) おむつ交換 (4) おまるの援助 4) 衣生活援助技術 (1) 衣生活行動のしつけ 2) 乳児・幼児の衣服 (3) 更衣時の援助 5) 移動の援助技術 (1) 移動に関する基礎知識 *抱っこ・ベビーカー・車椅子・ストレッチャー 6) 環境調整の技術 (1) 小児のための環境調整	講義・演習	内田 美鈴		
3～4	2. 小児看護の基本技術 1) コミュニケーション技術 2) プレパレーション技術 3. 身体状態把握のための看護技術； 1) バイタルサイン (1) 体温・脈拍・呼吸・血圧 2) 身体各部の測定 (1) 身長・体重・頭囲・泉門・胸囲	講義・演習	内田 美鈴		
5～6	4. 検査・処置を伴う看護技術 1) 採血 2) 採尿・導尿 3) 咽頭・鼻腔培養	講義・演習	内田 美鈴		

	<p>4) 骨髄穿刺・腰椎穿刺</p> <p>5) 与薬 (1) 経口与薬 (2) 坐薬 (3) 注射 (4) 輸液管理 (5) 点鼻・点耳・点眼 (6) 吸入</p> <p>6) 吸引 口腔・鼻腔・気管</p> <p>7) 酸素療法 経鼻・マスク・テント</p> <p>8) 抑制 体幹の抑制, 四肢の抑制</p>		
7~8	<p>II. 症状別に見る小児の看護</p> <p>1. 小児にみられる症状の特徴と看護の実際</p> <p>1) 痛み 2) 発熱 3) 脱水 4) 嘔吐・下痢 5) 発疹 6) けいれん 7) 意識障害</p>	講義	内田 美鈴
9~10	<p>III. 状況別に見る小児と家族の看護</p> <p>1. 外来における小児と家族の看護</p> <p>1) 外来看護の特徴と看護の役割 2) 外来における小児と家族への看護の実際</p> <p>2. 救急における小児と家族の看護</p> <p>1) 小児救急外来を訪れる小児の特徴 2) 小児の事故・外傷の特徴 3) 小児救急における看護対応 4) 小児の救急処置 蘇生法など)</p> <p>3. 入院における小児と家族の看護</p> <p>1) 入院が小児と家族に及ぼす影響 2) 小児の入院環境 3) 小児の入院と小児・家族の看護</p>	講義	院外講師
11~14	<p>4. 検査・処置を受ける小児と家族の看護</p> <p>1) 検査を受ける小児の反応とプレパレーション 2) 検査・処置中の小児の安全・安楽への援助 3) 検査・処置を受ける小児の家族への援助</p> <p>5. 手術を受ける小児と家族の看護</p> <p>1) 手術を受ける小児の反応とプレパレーション 2) 手術を受ける小児の看護 3) 手術を受ける小児の家族への援助</p> <p>6. 長期療養が必要な小児と家族の看護</p> <p>1) 長期療養が必要な小児と家族の特徴 2) 長期入院（療養）が小児と家族に及ぼす影響 3) 退院から在宅への移行期の小児と家族への影響</p> <p>7. 終末期の小児と家族の看護</p> <p>1) 身体的・精神的苦痛への援助 2) 生命・死についてのとらえかた 3) 小児と家族の看護 4) 小児をなくした家族の看護 5) グリーフケア</p> <p>8. 子どもの虐待と看護</p> <p>1) 子どもの虐待の現状と対策の経緯 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5) 求められるケア</p>	講義	内田 美鈴
15	児童虐待防止等に関する法律	講義	藤島 法仁

16～17	<p>IV. 健康障害別看護</p> <p>1. 低出生体重児（未熟児）の看護</p> <p>1) 低出生体重児の看護の役割</p> <p>2) 低出生体重児の環境 *新生児集中治療室 (NICU)</p> <p>3) NICU入院中の看護</p> <p>4) ディベロップメンタルケア</p> <p>5) 家族への看護</p> <p>6) 退院後のフォローアップ、輸液管理</p>	講義	尊田 知美
18～21	<p>2. 呼吸器疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 肺炎の小児の看護</p> <p>3. 循環器疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) ファロー四徴症の小児の看護</p> <p>2) 川崎病の小児の看護</p> <p>4. 消化器疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 形態異常のある疾患の看護</p> <p>*唇裂・口蓋裂 *幽門狭窄症 *鎖肛</p> <p>*胆道閉鎖症</p> <p>2) その他の消化器疾患の看護</p> <p>*腸重積症の小児の看護</p> <p>5. アレルギー性疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 気管支喘息の小児の看護</p> <p>2) 食物アレルギーの小児の看護</p> <p>6. 感染症をもつ小児の看護</p> <p>1) 潜伏期、急性期、回復期の看護</p> <p>2) 初期アセスメント</p> <p>3) 隔離の考え方</p> <p>4) 生活の援助と配慮</p> <p>*麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、百日咳、髄膜炎</p>	講義	内田 美鈴
22～25	<p>7. 腎・泌尿器疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 腎疾患をもつ小児の看護</p> <p>*ネフローゼ症候群の小児の看護</p> <p>2) 泌尿器疾患をもつ小児の看護</p> <p>*尿路感染症の小児の看護</p> <p>8. 代謝性疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 1型糖尿病の小児の看護</p> <p>9. 運動器疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 先天性股関節脱臼の小児の看護</p> <p>2) 骨折した小児の看護</p> <p>9. 神経疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) けいれんのある小児の看護</p> <p>*てんかん患児の看護</p> <p>*熱性けいれんの小児の看護</p> <p>2) 脳性麻痺の小児の看護</p> <p>10. 精神疾患をもつ小児の看護</p> <p>1) 不安が強く不登校となった神経症の子どもの看護</p> <p>2) 注意欠陥/多動性障害の子どもの看護</p>	講義	内田 美鈴
26～30	<p>V. 事例演習（気管支喘息患児の事例を用いて）</p> <p>1. 情報収集の視点</p> <p>1) 情報収集の方法</p> <p>2) 発達段階と必要な情報</p> <p>(1) 対象患児の成長・発達段階</p> <p>(2) 対象患児の日常生活（基本的な生活習慣の獲得・</p>	講義・演習	内田 美鈴

	自立度) (3) 人間関係 2. 分析の視点 1) 健康障害と小児の身体的特徴の関連 2) 健康障害が成長発達に及ぼす影響 (1) 小児の病気の受け止め、理解 (2) 病気・治療に伴うストレス 3) 健康障害が家族に及ぼす影響 (1) 家族の反応 (2) 養育上の家族の負担・ストレス 3. 介入計画立案 1) 成長発達段階・健康の段階を考慮した具体策 2) 家族も含めた援助	講義・演習	内田 美鈴
試験			

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院
3. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院
4. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院
5. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院
6. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院
7. 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護学技術 子どもと家族の力を理解し引き出す 南江堂

参考文献

1. 発達段階から見た 小児看護過程 医学書院
2. 看護診断にもとづく小児看護ケアプラン 医学書院
3. 小児看護学 家族への系統的アプローチの実際 医歯薬出版
4. ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院
5. NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院
6. これなら使える看護診断 医学書院
7. 小児看護実習ガイド 照林社
8. チームで支える！子どものプレパレーション 中山書店

評価方法

筆記試験、レポート課題（別紙評価計画参照）

領域	専門分野Ⅱ 小児看護学	対象学年	3年	開講時期	前期・後期								
科目	小児看護学実習	単位(時間)	2単位(90時間)										
講師名 所属	剣持 葉子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師14年												
<p>実習目的・目標</p> <p>小児とその家族の特徴を理解し、小児の成長・発達及び健康レベルに応じた小児看護の実践に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>小児は人間のライフサイクルにおいて、成長・発達において著しく変化する時期であり、それぞれの発達段階で異なる特徴と発達課題を持っている。健康の保持、早期回復への促し、あるいは健康障害を抱えつつもその子らしく生きていくことができるように、計画的かつ意図的、安全な看護実践が求められる。健康な小児・健康障害を持つ小児の身体的・精神的・社会的特徴をふまえ、成長発達を促す環境や段階に応じた看護を実践する必要について理解する。小児が成長・発達していく課程の中で家族の存在は大きい。ため、家族の存在の意味や関係性について理解する。小児にとって遊びは、健全な心と身体の成熟を促進し、知的機能、情緒、社会性の発達に欠かすことができない重要な意味を持っている。発達段階にふさわしい遊びが必要となり、この遊びを通して医療者とのコミュニケーションを図ることにもつながり認知機能の発達を踏まえた意図的なかかわりが「子どもの権利」を尊重したかかわりにつながる。小児の意思を尊重するとともに困難な状態を改善し、健やかな成長・発達に向けた看護を実践していく。小児の特徴を踏まえた症状・治療・処置がスムーズに実施できるための援助の工夫について学ぶ。</p> <p>小児科外来では、病気をかかえた小児だけでなく予防接種や健康診査を受けるために来院する。あらゆる成長・発達、健康レベルの小児にとって、安全面の配慮や小児とその家族の緊張を緩和したり親しみやすい環境について学ぶ。また、伝染性疾患、感染症への対処として、ほかの小児への感染防止の方法として、待合室や診察室、おもちゃなどの衛生面を意識しながら環境調整することの必要性を学ぶ。さらに近年、少子化や多様な家族形態により育児不安を抱えている親や適切な養育環境にない状況もある。外来受診をきっかけに育児支援や健康教育の機会を設けたり、地域社会における支援につなげる必要がある。これらのことから小児が健やかに成長・発達を遂げるために保健・医療・福祉及び教育にかかわる専門職が連携・協働し小児を中心としたチームアプローチについて学ぶ。</p>													
<p>授業概要：</p> <p>小児看護学実習（健康な乳幼児の理解）では、日々成長・発達を遂げる子どもの身体的・精神的・社会的特徴を理解し、基本的な生活習慣獲得のための生活支援、社会性を育むための支援を学ぶ。</p> <p>小児看護学実習（健康障害を持つ小児と家族の看護）では、健康障害のある小児の特徴を理解し、健康障害や成長発達の段階に応じた看護を実践することとする。生活上の制限がありながらも、その子らしく生きていけるよう成長・発達を支援し、基本的な生活習慣の確立や検査・処置時の苦痛の軽減、安全に配慮した援助、さらに家族を含めた看護について学ぶ。</p>													
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <p>健康な乳幼児の理解</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 健康な小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる</td> <td>①身体面・心理面・社会面の特徴の理解</td> </tr> <tr> <td>2. 小児の健全な成長発達を促すための環境について理解できる</td> <td>①形態的、身体・生理、感覚・運動機能の特徴 ②園内の設備、物品について安全に向けてどのような配慮や工夫がなされているか観察する ③集団生活における感染予防の実際 ④家庭と保育園の連携</td> </tr> <tr> <td>3. 健康な小児の成長・発達に必要な援助を実践できる</td> <td>①小児の発達段階の特徴の理解 ②小児の成長発達を考慮した生活援助の理解 ③小児の成長発達に合わせた遊びの援助</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は、実習要項参照</p>						実習目標	実習内容	1. 健康な小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる	①身体面・心理面・社会面の特徴の理解	2. 小児の健全な成長発達を促すための環境について理解できる	①形態的、身体・生理、感覚・運動機能の特徴 ②園内の設備、物品について安全に向けてどのような配慮や工夫がなされているか観察する ③集団生活における感染予防の実際 ④家庭と保育園の連携	3. 健康な小児の成長・発達に必要な援助を実践できる	①小児の発達段階の特徴の理解 ②小児の成長発達を考慮した生活援助の理解 ③小児の成長発達に合わせた遊びの援助
実習目標	実習内容												
1. 健康な小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる	①身体面・心理面・社会面の特徴の理解												
2. 小児の健全な成長発達を促すための環境について理解できる	①形態的、身体・生理、感覚・運動機能の特徴 ②園内の設備、物品について安全に向けてどのような配慮や工夫がなされているか観察する ③集団生活における感染予防の実際 ④家庭と保育園の連携												
3. 健康な小児の成長・発達に必要な援助を実践できる	①小児の発達段階の特徴の理解 ②小児の成長発達を考慮した生活援助の理解 ③小児の成長発達に合わせた遊びの援助												

健康障害をもつ小児と家族の看護	
1. 健康障害をもつ小児の特徴について理解することができる	①小児の形態的特徴、生理的特徴、運動・精神機能について理解し、必要な情報を収集する ②受け持ち小児の健康障害のレベル、健康障害が成長発達に及ぼす影響の理解
2. 小児の健康障害や健康の段階、成長発達の段階に応じた看護を実践できる	①受け持ち小児の経過（急性期・慢性期）や成長発達家庭にある個別性や健康の段階に応じた援助の実際 ②健康障害のある小児の病状に応じた遊び・活動の工夫 ③成長発達にある小児の検査・治療・処置についての理解、小児に及ぼす影響についての理解 ④小児外来における看護の実際
3. 小児に起こりうる事故について理解し安全に配慮した援助が実施できる	①入院中、発達段階別におこりやすい自己についての理解 ②小児の安全を守るための環境整備
4. 小児や家族、医療チームとのよい人間関係を築くことができる	①小児・その家族との関係性の理解（看護師、医療者、多職種）
5. 医療チームの一員として看護師の役割を自覚し責任ある行動をとることができる	①看護者の倫理綱領に基づいた態度・姿勢の理解
6. 小児と家族の看護を通して自己の小児観を考えることができる	①小児看護についての考え
<p>詳細は、実習要項参照</p> <p>2. 実習施設</p> <p>1) 小児看護学実習（健康な乳幼児の理解） 下宿保育園 井手川内保育園 ひまわり保育園</p> <p>2) 小児看護学実習（健康障害を持つ小児と家族の看護） 独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター 5 西病棟 小児科外来</p>	
<p>履修条件</p> <p>専門分野の単位履修ができていない学科科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。 基礎看護学看護過程実習において単位認定されなければ、専門分野Ⅱの各領域実習を履修できない。</p>	
<p>参考文献</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 3. 発達段階から見た 小児看護過程 医学書院 4. 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 南江堂 5. 小児看護技術 南江堂 6. 小児看護実習ガイド 照林社 7. チームで支える！子どものプレパレーション 中山書店</p>	
<p>評価方法</p> <p>実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する</p>	